【提出様式】 令和6年度 豊島区立学校 学校評価 自己評価表

豊島区立 駒込中 学校

評価対象者数 (人)			
児童・生徒数	保護者数	教職員数	地域の方
154	94	11	9

領域	豊島区教育ビジョン 2019 基本方針等	評価番号	評価項目	年間評価																学校関係者による評価		次年度に向けた改善策			
				児童・生徒				保護者					地域					教職員					自己評価概要	学校関係者評価の意見	標語
				4	3	2	1	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0	4	3	2	1				
I	就学前から小学校・中学校への円滑な接続	I-1	学校は、関係諸機関等(保育園や幼稚園、小学校、中学校)と連携を図ろうとしている。					38	39	4	0	13	3	5	0	0	0	11	4	2	0	小学校と連携し、ゴミゼロデー、挨拶運動、募金活動を行ったり、中学校教員が出前授業を行ったりしたことで、充実した連携となった。	進学前の保護者に中学校の良さが伝わる機会がさらに増えるとよい。	A	来年度は、「発信力の育成」を意識した連携を行っていく。ゴミゼロデーでは、地域班ごとに中学生を配置し、縦のつながりを意識させるような取り組みになるように小学校連携し、実施する。
II	確かな学力の育成	II-1	学校は、子どもの学力の定着・向上のために、分かりやすい授業を行っている。	児童・生徒を対象としたアンケート集計表をご参照ください。	37	42	6	0	9	3	5	0	0	0	14	2	0	0	夏休み明けにICT担当教員と支援員が企画し、研修会を実施したことで、各教科等さまざまな教育活動全体を通してICTを活用した授業改善をすることができた。また、発信力の育成を意識した授業を全ての教科で行った。	ICT機器を活用した授業等工夫され、保護者も生徒も肯定評価が多く、確実に実施されている。	A	来年度も生徒の発信力を高めるため、授業改善を図る。また、生徒による授業評価や各種学力調査の結果分析を基に授業改善プランを作成し、授業改善を図ることで、生徒の学力向上を図る。年度当初に研修会を企画することでタブレットをさらに効果的に活用し、質の高い授業を全教員で実践していく。			
		II-2	学校は、ICT機器やタブレット端末等の活用により、分かりやすい授業の実施や子どもの学びの意欲の向上に取り組んでいる。		36	41	5	2	10	3	5	0	0	0	9	7	0	0	発達段階に応じた道徳の指導を行い、お互いの良さを認め合い、良好な人間関係の形成につながっていた。保護者へ「豊かな心の育成」等の取り組みを学年だより等で知らせる機会が少なかった。	登下校で会うと元気に挨拶している生徒が多くうれしく思います。校長先生の方針が根付いているという印象を受けました。生徒は和やかに生活できているので、豊かな心の育成は確実にできている。	A	「考え、議論する」道徳を実践するために、授業改善を進めていく。生命の大切さをさらに考えさせるとともに他者を理解する心を育てる。学年だより等で保護者へ「豊かな心の育成」等の取り組みを知らせるようにする。			
III	豊かな心の育成	III-1	学校は、道徳科の時間を含めた全教育活動とおして、互いの良さを尊重し合う温かい学校づくりを推進している。		44	37	5	1	7	3	5	0	0	0	12	4	0	0	保健委員が、毎月衛生点検の取り組みを行ったり、行事食の時には給食委員が「食」に関するトピックスを紹介した。生徒の主体的な活動を通して、健康教育の推進ができた。	運動会で自主的に行動している生徒が多く、運動会を盛り上げたいと言う意気込みを感じました。がん教育の講演会等、日頃から生徒の健康促進に取り組んでいる様子が分かりました。	B	健康教育は、教科横断で取り組み、健康への意識をさらに高める。保健体育は、今年度同様、体を動かすことの楽しさを理解させ、体力向上に努める。来年度も、生徒が生涯を通じて心身の健康を保持増進するための取り組みを企画・運営する。			
		III-2	学校は、生命を大切にす態度や思いやり、優しい心を育てている。		38	39	2	0	15	4	4	0	0	0	12	4	0	0	いじめアンケートやi-checkを活用し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に組織的に取り組むことができた。さくらルームを有効活用し、生徒の居場所を確保できている。また、関係諸機関と連携し、生徒一人一人の状況を共有できた。「特別支援教育」等に関しては、わからないと回答した保護者が多かった。	定期的に教育相談委員会を開催し、特別支援教育やいじめ、不登校の防止・早期発見・早期対応等を組織的にやっている。今後も続けていきたい。	B	今年度同様、不登校対策支援員、Sルーム教員、SC、SSWを交えた特別支援委員会を定期的に開催し、一人一人に寄り添った方策を組織的に見立て、指導を行う。いじめ・不登校対策委員会は、週に1回開催し、いじめや不登校の防止・早期発見・早期対応等を組織的に行う。「いじめ防止」や「特別支援教育」に関して学校だよりや保健だよりで実際に行っていることを周知する。			
IV	健やかな体の育成	IV-1	学校は、子どもの体力向上や健康の促進に、積極的に取り組んでいる。		36	46	2	1	9	4	4	0	0	0	13	3	0	0	いじめアンケートやi-checkを活用し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に組織的に取り組むことができた。さくらルームを有効活用し、生徒の居場所を確保できている。また、関係諸機関と連携し、生徒一人一人の状況を共有できた。「特別支援教育」等に関しては、わからないと回答した保護者が多かった。	アンケートの結果からも安定した学校生活が保たれていると思う。	B	保護者や生徒、地域の学校評価の結果を分析し、PDCAサイクルによる学校改善を一層推進させる。保護者や地域の方の意見や要望を受け止め、地域での生活の仕方の指導を継続して行う。			
		IV-2	学校は、充実した食育指導を通して、健康教育に取り組んでいる。		36	30	8	1	19	3	5	0	0	0	13	2	1	0	ホームページや各種たより、としま土曜公開授業等を通して、開かれた学校づくりに取り組みことができた。来年度も継続して行う。	教育センターや児童相談所等とも連携を図り、生徒を支援・見守っていただき感謝している。	A	今年度同様、ホームページや各種たよりの充実を努め地域への周知を図る。また、教育センターや児童相談所等とも継続して連携を行う。			
V	一人一人を大切にす教育の推進	V-1	学校は、いじめ防止等(未然防止、早期発見、早期対応)に学校全体で組織的に対応している。		40	33	3	0	18	5	3	0	0	0	15	1	0	0	「発信力の育成」を意識した指導を教育活動全体を通して行うことができた。	各行事はもちろん毎日の授業でも生徒の「発信力」を意識していることが、素晴らしいと思います。	A	来年度は、研究2年目なので、今年度以上に全教員で生徒の「発信力の育成」を行う。さらに、生徒が発信できる場面を増やし、成功体験を重ねることで自己肯定感を高める指導を行う。			
		V-2	学校は、子ども達の気持ちを理解するために、一人一人に寄り添いながら、指導を行っている。		43	38	6	0	7	3	4	0	0	1	13	3	0	0	各分掌、学年「チーム学校」を意識して組織的に取り組むことができています。	教職員の仲がよい様子が伝わってきます。	B	今年度以上に「チーム学校」を意識し、組織的に業務を行う。そのために、デジタル化や外部人材の活用を促進させ、生徒と向き合う時間を充実させる。			
		V-3	学校は、特別支援教育や発達障害等に関して、一人一人に適切な指導を行っている。		20	20	4	0	50	3	4	0	0	2	13	3	0	0							
VI	教師力の向上と魅力ある学校づくり	VI-1	学校は秩序があり、子ども達は落ち着いて学校生活を送っている。		48	37	5	0	4	6	2	0	0	0	9	6	1	0							
		VI-2	学校は、保護者や地域の方の意見や要望を受け止め、学校改善に生かしている。	40	43	2	0	9	6	2	0	0	0	11	3	0	0								
VII	家庭・地域との連携	VII-1	学校は、学校や子ども達の様子を、学校だよりやホームページ、学校公開等によって、分かりやすく伝えている。	60	28	4	0	2	7	1	0	0	0	15	1	0	0								
		VII-2	学校は、家庭や地域と協力しながら子どもを教育している。	44	41	4	0	5	7	1	0	0	0	11	5	0	0								
VIII	特色ある教育活動	VIII-1	学校は、発信力の育成の取り組みに関する教育を推進している。	28	39	8	3	16	7	1	0	0	0	15	1	0	0								
IX	働き方改革	IX-1	学校は、校務支援システムの活用や「チーム学校」を意識した業務分担等により、組織的に業務の効率化・最適化を目指して取り組んでいる。											7	8	1	0								

※学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の視点で行う。 A 評価は妥当である B 評価はおおむね妥当である C 評価は妥当ではない D 評価方法を見直す必要がある